

(5-19) 北山ダム工事設備と二、三の考察

正員 大成建設KK 山 本 格

1. 北山ダム計画の概要

(イ) 貯水容量とその利用方法 (ロ) ダムの大きさ

2. 工事設備の概要

(イ) 骨材の採取: 細骨材は下流の河原からスラックラインで採集—1時間30t, 12kmの索道で運搬。粗骨材はダム上流でグローリーホール式で採掘しクラッシングプラントで2種に選別し貯蔵所に搬入する。

(ロ) ミキシングプラント: 骨材は貯蔵所の底部に設けたベルトコンベヤーで引出しパッチャーのビンに、セメントは索道終点の倉庫からエプロンコンベヤーでパッチャーのビンに入れる。ミキサーは28S傾胴型3台を使用する。

(ハ) コンクリート打設: 9t片側移動式ケーブルクレーンを使用する。

3. ダム工事に対する二三の考察

(イ) 地質調査を事前に厳密にやりたい。

(ロ) 地盤のコンソリデーションを迅速に簡単にするためワゴンドリルを利用したい。

(ハ) 骨材の粒度を厳密に管理したい。特にAE剤を使用する時は細骨材も場合によっては2種以上、粗骨材は3種以上に類別したい。

(ニ) 型枠を堅牢なものにしバイブレーターを充分かけたい。

(ホ) チッピングには安価で確実なサンドブラストを使用したい。

(ヘ) ケーブルクレーンをスピードアップし完全なものを使用したい。

(5-20) 野洲川ダム締切填充工事経過

正員 農林省矢作川農業水利調査事務所 畔 柳 嘉 男

I. 最後の締切までの経過: 野洲川ダムには3箇の仮排水路があつた。即ち

- | | |
|---------------|---------------------------------|
| 1. 仮排水隧道 | 底巾 2.50 m, 高さ 3.00 m, EL.347.40 |
| | 延長約 200 m 右岸岩盤中に掘さくしたもの |
| 2. 洪水吐(堤体内) | 底巾 4.00 m, 高さ 5.00 m, EL.350.00 |
| 3. 通常排水路(堤体内) | 底巾 1.50 m, 高さ 2.00 m, EL.347.40 |

図-1

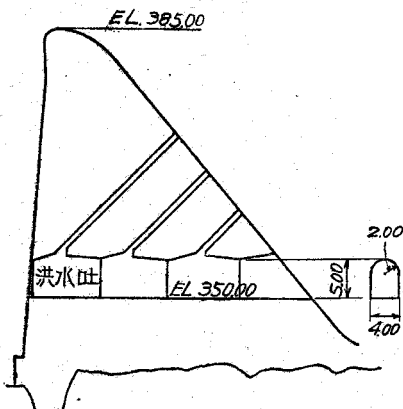
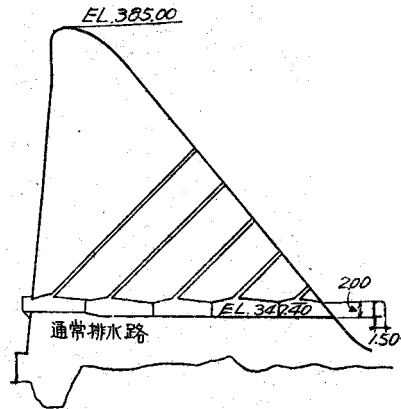


図-2



昭和26年4月12日現在、コンクリート残量4400m³、ドラムゲートは5月15日、スルースゲート捲揚機は6月15日完成を期しており、残る最大の課題締切工事について次の如く計画案を決めた。

イ、水路切替(仮排水隧道より堤体内排水路へ) 4月30日

ロ、本隧道の填充準備工

- i. 図-3(ロ)部分に図-4の設備(5月25日迄)
- ii. 填充部分(ホ)の巻立及びグラウチング(5月31日迄)
- iii. 横坑掘さく(5月25日迄)

ハ、以上完了後、再び水路を切替えて堤体内仮排水路を両方共填充(5月25日—6月15日)

ニ、山手隧道締切填充(図-4(ニ)部分) 6月15日

ホ、横坑より図-3(ホ)部分を填充

その後再検討して填充順序を次の如く変更決定した。

- (1) 洪水吐 (2) 山手隧道 (3) 通常排水路 変更理由について。

施工経過について。(5月15日以降7月に至る)

II. 通常排水路填充工事:

- (1) 工法, (2) 施工時期, (3) 締切填充(7月1日), (4) グ라우チング(7月4日以降)

図-3

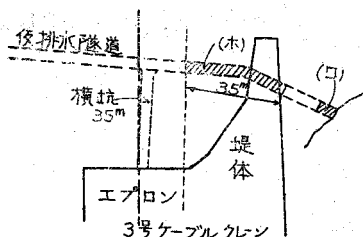


図-4

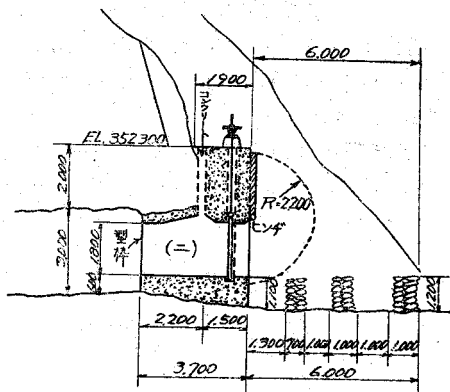


図-5

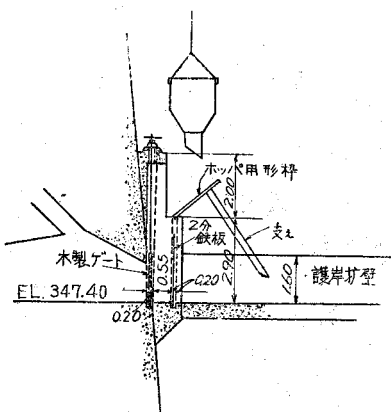
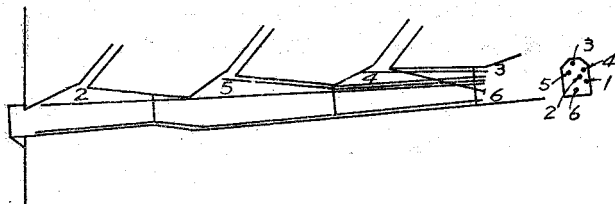


図-6



(5-21) セメント及び薬液注入工法を利用した 五十里ダムの仮締切工について

正員 建設省五十里工事事務所

荒 井 力

正員 東京大学生産技術研究所 工博 ○丸 安 隆 和